

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年1月9日 NO.76

オー君 「モンタ博士。きのうの続きだけど、今は、『冬』なの？それとも『春』なの？」
モンタ博士「それはね、今と昔（むかし）では、暦（こよみ）がちがうのさ。つまり、むずかしい言葉で、旧暦（きゅうれき）というけどね、昔は、お正月のころが、ちょうど春だったのさ。新聞やカレンダーにもものっているよ。」

花ちゃん 「3月3日のももの節句（せつく）の季節には、ももの花が咲かないのも、旧暦（きゅうれき）だからですね。」

モンタ博士「その通りだよ。」

オー君 「それから、7月7日といっても、梅雨（つゆ）で、七夕の星が見えないのも旧暦だからですか。」

モンタ博士「その通りだよ。」

花ちゃん 「それから、9月9日は、重陽（ちょうよう）の節句といって、菊（きく）の節句と言うけど、そのころは、まだ菊の花が咲かないのも旧暦だからですね。」

モンタ博士「ほほー。花ちゃんは、重陽の節句を知っているの。すごだね。おどろきだ。ところで、どうして、七草を食べるんだと思う。」

花ちゃん 「それは、一年間病気（びょうき）もしないで、健康（けんこう）でいられるようにということらしいわ。」

オー君 「ふーん。そうなんだ。でも、おいら、野菜（やさい）はいつもよく食べているけどな。」

モンタ博士「今でこそ、温室栽培（さいばい）や冷凍保存（れいとうほぞん）などで、いろいろな野菜を季節（きせつ）と関係なく、いつでも食べられるようになったけど、昔はそうではなかったと思うよ。」

花ちゃん 「そうか。自分たちで野菜（やさい）取りに行ったということなんですね。」





春の七草のひとつ・・・ハコベ

モンタ博士「その通りだよ。長く寒（さむ）い冬も終わって、春めいてきた日に、新鮮（しんせん）な野菜を食べたかった昔の人たちは、野や山に行って、ピクニックみたいな気分であちこちをてくてくしながら、食べられる葉っぱを探（さが）したんだろうね。そして、七種類の草をつんだんだ。そして、おかゆに入れて、ビタミンの補給（ほきゅう）をしたんじゃないかな。」

オー君 「それじゃ、どうして七種類なのかな。」

モンタ博士「それはね、七という数は、昔からおめでたい数だからなんだよ。」

オー君 「きっと、昔は、みんなで楽しく喜んで、あちこちてくてくに行ったんだ。」

モンタ博士「春の七草というのは、水辺（みずべ）の草もあり、上の写真のハコベのように道ばたの雑草（ざっそう）もあり、お庭や野の草もあり、それに、畑や田んぼのあぜに生えるものもあるんだよ。」

オー君 「花ちゃん！今から七草を見つけに行こう！」

花ちゃん 「うん！行こう行こう。」

古きよき風習は先人の優れた知恵

セリ、ナズナ、オギョウ（ハハコグサ）、ハコベラ（ハコベ）、ホトケノザ（コオニタビラコ）、スズナ（カブ）、スズシロ（ダイコン）の七種。七草粥を食べることは現代まで続いているが、もともとは日本にある七種の食材をいれた粥を食べて健康長寿を願う意味と、正月に若い菜を摘むことが、中国から伝わった「人日（じんじつ）」の風習と混ざり合って、人々の間に根付いたもの。春の光を待ちわびて、芽吹く野山や田畑の野菜、道々の草のカロチンとビタミンの栄養と、いろいろな薬効を取り入れる先人の知恵に頭を垂れるのみ。